

專 門 分 野 I

基礎看護学		講師名	看護専任教員他																																																																							
開講時期	1年次前期～2年次後期	単位数	13単位	450時間																																																																						
<p>【目的】</p> <p>人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健医療における看護の役割について理解し、看護実践の基盤となる、知識、技術、態度を学ぶ。</p>																																																																										
<p>【構成】</p> <table> <tr> <td>基礎看護学</td> <td>13単位</td> <td>450時間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学概論</td> <td>1単位</td> <td>30時間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎看護技術Ⅰ（共通基礎技術）</td> <td>1単位</td> <td>30時間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎看護技術Ⅱ（フィジカルアセスメント）</td> <td>1単位</td> <td>30時間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎看護技術Ⅲ（日常生活援助①）</td> <td>1単位</td> <td>30時間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎看護技術Ⅳ（日常生活援助②）</td> <td>1単位</td> <td>30時間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎看護技術Ⅴ（日常生活援助③）</td> <td>1単位</td> <td>30時間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎看護技術Ⅵ（診療の援助①）</td> <td>1単位</td> <td>30時間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎看護技術Ⅶ（診療の援助②）</td> <td>1単位</td> <td>30時間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床看護総論</td> <td>1単位</td> <td>30時間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護過程</td> <td>1単位</td> <td>45時間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎看護学実習</td> <td>3単位</td> <td>135時間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 基礎看護学実習Ⅰ</td> <td>1単位</td> <td>45時間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 基礎看護学実習Ⅱ</td> <td>2単位</td> <td>90時間</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					基礎看護学	13単位	450時間			看護学概論	1単位	30時間			基礎看護技術Ⅰ（共通基礎技術）	1単位	30時間			基礎看護技術Ⅱ（フィジカルアセスメント）	1単位	30時間			基礎看護技術Ⅲ（日常生活援助①）	1単位	30時間			基礎看護技術Ⅳ（日常生活援助②）	1単位	30時間			基礎看護技術Ⅴ（日常生活援助③）	1単位	30時間			基礎看護技術Ⅵ（診療の援助①）	1単位	30時間			基礎看護技術Ⅶ（診療の援助②）	1単位	30時間			臨床看護総論	1単位	30時間			看護過程	1単位	45時間			基礎看護学実習	3単位	135時間			基礎看護学実習Ⅰ	1単位	45時間			基礎看護学実習Ⅱ	2単位	90時間		
基礎看護学	13単位	450時間																																																																								
看護学概論	1単位	30時間																																																																								
基礎看護技術Ⅰ（共通基礎技術）	1単位	30時間																																																																								
基礎看護技術Ⅱ（フィジカルアセスメント）	1単位	30時間																																																																								
基礎看護技術Ⅲ（日常生活援助①）	1単位	30時間																																																																								
基礎看護技術Ⅳ（日常生活援助②）	1単位	30時間																																																																								
基礎看護技術Ⅴ（日常生活援助③）	1単位	30時間																																																																								
基礎看護技術Ⅵ（診療の援助①）	1単位	30時間																																																																								
基礎看護技術Ⅶ（診療の援助②）	1単位	30時間																																																																								
臨床看護総論	1単位	30時間																																																																								
看護過程	1単位	45時間																																																																								
基礎看護学実習	3単位	135時間																																																																								
基礎看護学実習Ⅰ	1単位	45時間																																																																								
基礎看護学実習Ⅱ	2単位	90時間																																																																								

授業科目	看護学概論	講師名	雨宮加代子		所属	看護専門学校
開講時期	1年次 前期	単位数	1単位	時間数	30時間	
【学習目的】						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の源流を振り返り、看護学の発達と看護の近代化や社会化に貢献した看護の諸理論の概要を学ぶ。 2. 看護全般の概要をとらえ、看護の位置づけと役割の重要性を学ぶ。 						
【学習目標】						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の考え方の変遷を社会的変化との関連でたどり、現代の看護の考え方と看護学の発展段階を知り、看護の本質、看護の定義について理解する。 2. 看護の対象である人間と環境とを生活統合体として捉え、看護の対象は全ての健康レベルの人とその家族であることを理解する。 3. 代表的な健康の定義や概念を知り、健康が全人的な生活概念であることを理解する。 4. 看護と法律との関係性を知り、保健医療チームにおける看護の機能、役割について理解する。 5. 看護を取り巻く社会的な動向、看護専門職についての認識を深め、看護の将来を考えることができる。 						
【学習内容】						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の概念 社会の変化と看護概念の変遷 2. 看護の歴史 職業としての看護 看護学の発展と現代の主要な看護理論の概要 3. 看護の対象 4. 環境と看護 5. 健康と看護 6. 看護の機能と役割 7. 保健医療システムと看護 8. 看護関連の法と倫理、教育制度 9. 保健医療・看護における国際化とこれからの展望 						
【使用テキスト】						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 2. 看護の基本となるもの(日本看護協会出版会) 3. 看護覚え書き(現代社) 4. 看護学への招待(ライフサポート社) 						
【評価方法】						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中に掲示した課題 2. 学科試験(筆記試験) 						
備考						

授業科目	基礎看護技術Ⅰ (共通基礎技術)	講師名	矢部真由美		所属	看護専門学校
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間	

【学習目的】

看護実践の基盤となる考え方を理解し、看護実践を行うために共通する知識、技術、態度を身につける。

【学習目標】

1. 看護技術の考え方について理解できる。
2. 看護における安全性、安楽性、自立が理解できる。
3. 看護に共通する技術を習得する。

【学習内容】

1. 看護技術の考え方
 - 1) 技術とは
 - 2) 看護技術の特徴
 - 3) 看護技術を適切に実践するための要素
2. 看護における安全性、安楽性、自立とは
3. 看護に共通する知識、技術
 - 1) コミュニケーション技術
 - 2) 観察、報告
 - 3) リフレクション

【使用テキスト】

有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
 有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

【評価方法】

学科試験 : 筆記試験

授業科目	基礎看護技術Ⅱ (フィジカル アセスメント)	講師名	本間理予 矢部真由美		所属	看護専門学校
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間	

【学習目的】

フィジカルイグザミネーションの方法がわかり、得られた客観的データが正常か異常かを知ることができる

【学習目標】

1. フィジカルイグザミネーションの意義と目的がわかる
2. フィジカルイグザミネーションの方法がわかり、安全・正確に実施できる
3. フィジカルイグザミネーションで得られた客観的データから、身体の正常な状態がわかる

【学習内容】

「バイタルサイン」

- ① 体温
- ② 脈拍数
- ③ 呼吸数
- ④ 血圧
- ⑤ 意識レベル

「各器官系統のフィジカルイグザミネーション」

- ① 皮膚・粘膜系
- ② 筋・骨格系
- ③ 呼吸器系
- ④ 消化器系
- ⑤ 神経系

「総合演習」

- ① バイタルサイン
- ② 身体各部のフィジカルイグザミネーション

【使用テキスト】

有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
 有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 山内豊明著：フィジカルアセスメントガイドブック 第2版 医学書院

【評価方法】

学科試験 : 1. 筆記試験 2. 技術試験 1・2の割合は授業開講時に説明する

備考 * 授業・演習などの詳細は授業時に説明を行う

授業科目	基礎看護技術Ⅲ (日常生活援助①)	講師名	橋本正子		所属	看護専門学校
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間	

【学習目的】

人間にとっての「環境」や「活動・休息」の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために必要な基本的知識・技術を習得する。

【学習目標】

「環境」

1. 安全・安楽な病床環境を整える必要性や意義を理解することができる。
2. 安全・安楽な病床環境を理解することができる。
3. 病床環境を安全・安楽に配慮して整えることができる。

「活動・休息」

1. 健康の充足・維持増進のために「活動・休息」の必要性や意義を理解することができる。
2. 安全・安楽な体位変換や安静保持の援助方法を理解することができる。
3. 体位変換や安静保持のための援助を安全・安楽に配慮して行うことができる。
4. 安全・安楽な移動の援助方法を理解することができる。
5. 移動の援助を安全・安楽に配慮して行うことができる。
6. 安全・安楽な睡眠を促す援助方法を理解することができる。

【学習内容】

「環境」

- ①人間を取り巻く環境や健康な生活環境
- ②安全・安楽な病床環境
- ③安全・安楽な病床環境を整える援助
 - 1) ベッドメイキング
 - 2) 環境整備
 - 3) 臥床患者のリネン交換

「活動・休息」①「活動・休息」のメカニズム

- ②「活動・休息」の援助
- ③安全・安楽な「活動・休息」への援助
 - 1) 体位変換
 - 2) 安楽な体位保持
 - 3) 歩行介助
 - 4) 車椅子の移乗移送
 - 5) ストレッチャーの移乗移送
 - 6) 生活リズムの調整 など

【使用テキスト】

有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
 有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

【評価方法】

学科試験 : 1. 筆記試験 2. 技術試験
 1・2の割合は授業開講時に説明する

備考

* 授業・演習などの詳細は授業時に説明を行う

授業科目	基礎看護技術Ⅳ (日常生活援助②)	講師名	藤森京子 坂田奈緒		所属	看護専門学校
開講時期	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30時間	
<p>【学習目的】 人間にとっての「清潔」「衣生活」の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために必要な基本的知識・技術を習得する。</p> <p>【学習目標】</p> <p>「清潔」</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間にとって身体を清潔に保つことの意義を理解することができる 「清潔」に関する観察の視点が理解できる 身体各部位への清潔の援助方法を理解することができる 身体各部位への清潔の援助を安全・安楽に配慮して行うことができる <p>「衣生活」</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間にとって「衣生活」の意義を理解することができる 「衣生活」に関する観察の視点が理解できる 「衣生活」の援助方法について理解することができる 寝衣交換の援助を安全・安楽に配慮して行うことができる <p>【学習内容】</p> <p>「清潔」</p> <ol style="list-style-type: none"> 身体を清潔に保つことの意義 <ol style="list-style-type: none"> ①一般的な意義 ②健康を障害された人へ清潔援助を行う意義 患者の状態を理解するための「清潔」に関する観察の項目 「清潔」に関する基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> ①温度刺激に対する生体の反応 ②身体各部位の皮膚感覚 ③清潔行動に伴う心身の反応など 身体の清潔のための援助方法 <ol style="list-style-type: none"> ①入浴 ②部分浴 ③清拭 ④洗髪 ⑤口腔ケア ⑥整容 <p>「衣生活」</p> <ol style="list-style-type: none"> 「衣生活」の意義 <ol style="list-style-type: none"> ①一般的な意義 ②健康を障害された人へ衣生活援助を行う意義 衣服・衣生活援助に関する基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> ①寝衣の条件 ②寝衣の種類 患者の状態を理解するための「衣生活」に関する観察の項目 衣生活の援助方法 <ol style="list-style-type: none"> ①寝衣交換 <p>【使用テキスト】 有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>【評価方法】 学科試験： 筆記試験・レポート</p>						
備考	* 授業・演習などの詳細は授業時に説明を行う					

授業科目	基礎看護技術Ⅴ (日常生活援助③)	講師名	橋本正子 本間理予		所属	看護専門学校
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間	

【学習目的】

人間にとっての「栄養と食事」や「排泄」、「呼吸と循環」の意義を理解し健康の充足・維持増進のために必要な知識・技術を習得する。

【学習目標】

- 「栄養」
1. 人間にとっての栄養の意義を理解できる。
 2. 栄養に対する援助に必要なアセスメントを理解できる。
 3. 対象に応じた栄養の基本的援助を根拠に基づいて理解できる。
 4. 食事に対する援助を安全・安楽に配慮して実施することができる。
 5. 栄養に対する援助が対象に及ぼす心理的影響に気付き、自尊心を傷つけない援助について考えることができる。

- 「排泄」
1. 人間にとっての排泄の意義を理解できる。
 2. 排泄の援助に必要なアセスメントを理解できる。
 3. 対象に応じた排泄の基本的援助を根拠に基づいて理解できる。
 4. 排泄の援助を安全・安楽に配慮して実施することができる。
 5. 排泄に対する援助が対象に及ぼす心理的影響に気付き、自尊心を傷つけない援助について考えることができる。

「呼吸・循環」

1. 人間にとっての呼吸・循環の意義を理解できる。
2. 健康の充足・維持増進のために、呼吸・循環を整える必要性を理解できる。
3. 呼吸と循環を整える援助を安全・安楽に行う必要性を理解することができる。
4. 呼吸と循環を整えるための援助を安全・安楽に配慮して行うことができる。

【学習内容】

- 「栄養」
1. 栄養とは何か
 2. 栄養の意義
 3. 栄養と食事に関するアセスメント
 4. 根拠に基づいた安全・安楽な栄養と食事の援助
- 1) 食事摂取の援助 2) 視力障害がある患者への援助 3) 嚥下障害がある患者への援助
4) 経口栄養ができない患者への援助

- 「排泄」
1. 排泄とは何か
 2. 排泄の意義
 3. 排泄に関するアセスメント
 4. 根拠に基づいた安全・安楽な排泄の援助
- 1) 床上排泄の援助 2) ポータブルトイレの援助 3) グリセリン浣腸など

「呼吸・循環」

1. 「呼吸と循環」の意義
 2. 「呼吸と循環」のメカニズム
 3. 根拠に基づいた「呼吸と循環」の援助の必要性
 4. 根拠に基づいた安全・安楽な「呼吸と循環」の援助
- 1) 酸素吸入 2) 薬液吸入 3) 吸引 4) 罨法 など

【使用テキスト】

有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

【評価方法】

学科試験：筆記試験

備考 * 授業・演習などの詳細は授業時に説明を行う

授業科目	基礎看護技術VI (診療の援助①)	講師名	藤森京子 坂田奈緒		所属	看護専門学校
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間	

【学習目的】

診療に伴う援助の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために実施される治療、検査、処置などに必要な基本的知識、援助技術の方法と看護を習得する

【学習目標】

- 「診療に伴う援助技術」 1. 診療のプロセスにおける看護師の責任と役割が理解できるなど
- 「検査に伴う援助技術」 1. 検査の意義と目的・種類、安全・安楽に実施するための方法と看護が理解できる
2. 採血の意義と目的・種類、安全・安楽に実施するための方法と看護が理解できる
3. モデル人形を用いた採血が実施できる など
- 「創傷保護のための援助技術」
1. 創傷保護の意義と目的・種類、安全・安楽に実施するための方法と看護が理解できる など
- 「感染予防の技術」
1. 感染予防の意義と目的、看護師の責任と役割が理解できる
2. 感染予防の原則とその種類・方法が理解できる
3. 感染予防の方法が実施できる など
- 「導尿の援助技術」
1. 導尿の意義と目的・種類、安全・安楽に実施するための方法と看護が理解できる
2. モデル人形を用いた導尿が実施できる など

【学習内容】

- 「診療に伴う援助技術」 1. 診療の援助とは など
- 「検査に伴う援助技術」 1. 検査とは
2. 検査時の看護の実際
3. 採血方法の実際 など
- 「創傷保護のための援助技術」 1. 創傷保護とは
2. 創傷保護の実際 など
- 「感染予防の技術」
1. 感染予防とは
2. 感染予防の実際と滅菌物取り扱いの実際 など
- 「導尿の援助技術」
1. 導尿とは
2. 導尿方法の実際 など

【使用テキスト】

有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
奈良信雄他：系統看護学講座 別巻6 臨床検査 医学書院

【評価方法】

学科試験： 筆記試験

備考

その他、詳細は開講時に担当教員より提示する

授業科目	基礎看護技術Ⅶ (診療の援助②)	講師名	本間理予	所属	看護専門学校
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間

【学習目的】

診療に伴う援助の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために実施される治療、検査、処置などに必要な基本的知識、援助技術の方法と看護を習得する

【学習目標】

「与薬に伴う援助技術」

1. 与薬の意義と看護師の役割、責任が理解できる
2. 与薬の種類と目的、安全・確実に実施するための方法が理解できる
3. 薬物療法を受けている対象の看護が理解できる
4. 内服薬の準備が実施できる
5. 注射の種類と目的、安全・確実に実施するための方法が理解できる
6. 注射の準備、点滴静脈注射の準備、およびモデル人形を用いた筋肉内注射、点滴静脈内注射が実施できる
7. 中心静脈点滴法および中心静脈栄養法の意義と目的、看護師の役割、責任が理解できる
8. 輸血の意義と目的、看護師の役割、責任が理解できる

「医療機器と看護」

1. 医療機器の種類と特性が理解できる
2. 安全・確実な輸液ポンプの取り扱いが実施できる

【学習内容】

「与薬に伴う援助技術」

1. 与薬とは
2. 安全・確実に与薬するための確認方法の実際（指差し呼称 5R確認）
3. 与薬の実際
 - ① 内服薬の準備 ② 注射の準備 ③ 皮下注射・筋肉内注射の実際
 - ④ 点滴静脈内注射の準備と血管確保、実施中の看護

「医療機器と看護」

1. 医療機器の種類と使用時の基礎的知識
2. 輸液ポンプの取り扱いと管理の実際

【使用テキスト】

有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
 有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

【評価方法】

学科試験：筆記試験

備考 その他、詳細は開講時に担当教員より提示する

授業科目	臨床看護総論	講師名	小野寺ひで子 矢部 真由美	所属	看護専門学校
開講時期	1年次後期	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>【学習目的】 健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護について学ぶ。また、事例をもとに状態に応じた必要な看護を学ぶ。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床看護の特徴と患者の理解ができる。 2. 疾病の経過と看護が理解できる。 3. 主要症状のある患者の看護が理解できる。 4. 事例をもとに患者に必要な援助が理解できる。 <p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床における看護の特徴 2. 対象の理解 3. 継続看護 4. 臨床看護の変化の理解 5. 疾病の経過と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 急性の経過をたどる患者の看護 2) 慢性の経過をたどる患者の看護 3) リハビリテーションと看護 4) 終末期にある患者の看護 6. 主要症状のある患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 頭痛のある患者の看護 2) 咳嗽・喀痰/呼吸困難のある患者の看護 3) 多尿・乏尿・無尿/浮腫のある患者の看護 4) 発熱/低体温のある患者の看護 5) 便秘・下痢のある患者の看護 6) 嘔気・嘔吐のある患者の看護 7) 腹部膨満/腹痛のある患者の看護 8) 感覚障害のある患者の看護 7. 事例展開 <p>【使用テキスト】 監修；高木永子：New 看護過程に沿った対症看護. 学習研究社.</p> <p>【評価方法】 筆記試験、レポートをもとに評価する。</p>					

授業科目	看護過程	講師名	市村 まゆみ		所属	看護専門学校
開講時期	2年次 前期	単位数	1単位	時間数	45時間	

【学習目的】

基礎看護学で学んだ知識、技術を土台とし、対象の健康に対する問題を判断し、解決するために、理論的知識を用いて、問題解決的な思考を専門技術として活用できる方法を学ぶ。

【学習目標】

1. 看護実践における看護過程の意義が理解できる。
2. ロイ適応看護理論の概要を知る。
3. ロイの看護モデルに基づく看護過程を理解する。
4. ロイ適応モデルによる看護過程の6段階が理解できる。
5. ロイ適応モデルによる看護過程の展開が、紙面上の事例を通して展開できる。

【学習内容】

1. 看護実践における看護過程とは
2. 看護過程における看護モデル活用の意義
3. ロイ適応看護理論について
4. ロイの看護過程について
 - 1) ロイ看護過程の定義
 - 2) ロイ適応モデルに基づく看護過程の6段階
 - ① 第1段階：行動のアセスメント
 - ② 第2段階：刺激のアセスメント
 - ③ 看護診断
 - ④ 目標設定
 - ⑤ 看護介入
 - ⑥ 評価
5. ロイ適応モデルによる看護過程の展開を紙面上の事例を通して展開する。

【使用テキスト】

1. 有田清子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
2. ロイ適応看護理論の理解と実際（医学書院）

【評価方法】

学科試験：1. 筆記試験 2. 事例展開の内容
 （1. 2の点数配分は講義開始時に提示）

授業科目	基礎看護学実習 I	講師名	実習担当教員 実習指導者	所属	看護専門学校 杏林大学病院
開講時期	前期：6月 後期：3月	単位数	1単位	時間数	45時間

【学習目的】

基礎看護学において学習した知識、技術、態度をもとに、看護の実践を通して看護とは何かを考え、看護に必要な能力と態度の基礎を養う。

【学習目標】

1. 患者の生活環境と療養生活の実際を知る。
2. 健康に障害をもつ対象の生活上の課題に気づき、対象に合わせた日常生活援助が実施できる。
3. 看護師としての基本姿勢を考え、行動できる。

【学習内容】

基礎看護実習 I（前期）学習内容

1. 病棟・病室の構造、設備などを見学し、患者の生活環境を実際に見学する。
2. 患者と看護師との関わりの場面を見学する。
3. 生活を整える援助技術を見学する。

基礎看護実習 I（後期）学習内容

1. 日常生活援助を必要とする患者を受け持ち実習を行う。
2. 指導者からの説明、患者とのコミュニケーション、観察、看護援助の見学を通して、疾患や治療・入院生活等が受け持ち患者の生活にどのように影響を与えているのか、必要な看護援助は何かを考える。
3. 患者の状態に合わせた援助計画を立案し、実践する。
4. 体験を通して、看護師の役割・看護技術を適切に実践するための要素について考える。

【評価方法】

実習の評価規定に基づき評価する。

* 詳細は基礎看護実習要項を参照

備考

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ	講師名	実習担当教員 実習指導者	所属	看護専門学校 杏林大学病院
開講時期	2年次 9月	単位数	2単位	時間数	90時間
<p>【学習目的】 様々な状況にある患者を統合された全体として理解するとともに、系統的な思考過程の基本を踏まえた看護を実践する基礎的能力を養う。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を生理的心理社会的に統合された全体として理解しようとする。 2. 系統的な思考過程のプロセスを通し、個別的で科学的根拠のある看護について考えることができる。 3. 患者と誠実に関わり信頼関係を築こうとする。 <p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者に対して、看護者としての関心をもち関わり、情報を得る。 2. 得られた情報のもつ意味を考え、患者の全体像をおおよそ把握し、健康問題を明らかにする。 3. 患者の健康問題を望ましい状態へ導くための援助を考え、一部実践する。 4. 体験を振り返り、個別的で科学的根拠に基づいた看護について考える。 5. 患者との信頼関係を築く関わりについて考え、行動する。 <p>* 詳細は基礎看護実習要項を参照</p>					
<p>備考 「基礎看護学実習Ⅱ」の受講には、実習開始前に、基礎看護学実習Ⅰを履修していることが必要である。</p>					